

第 438 回狛江市行財政改革推進本部会議会議録

- 1 日 時 令和8年8月 25 日(火)午前 10 時 05 分～10 時 10 分
- 2 場 所 市長公室
- 3 出席者 本部長 松原市長
副本部長 柏原教育長 本部員 富田企画財政部長
本部員 田部井総務部長 本部員 上田市民部長
本部員 秋山地域文化スポーツ部長 本部員 宗像福祉保健部長
本部員 鈴木子ども家庭部長 本部員 一瀬環境部長
本部員 竹之下都市建設部長 本部員 片岡議会事務局長
- 4 事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査 横山企画調整担当主事
- 5 欠席者 本部員 波瀬教育部長
- 6 議 題 1 令和8年度行政評価結果報告書(令和7年度実施事業)(案)について

7 会議概要

本 部 長 それでは、「1 令和8年度行政評価結果報告書(令和7年度実施事業)(案)について」説明をお願いします。

事 務 局 令和7年度の実施事業について、各課に評価を依頼し、報告書(案)として取りまとめた。まず、昨年度の行革本部での意見を踏まえた変更点について説明する。

1点目が、評価項目について、決算資料「主要な施策の成果説明書」の項目と揃え、決算額も各課で入力していたものを、決算資料を参照することとした点である。昨年度、行革本部会議で報告した際に、決算資料と整合性をとるべきであること、各課の二度手間にならないようやり方を見直すべきであること、との意見をいただき、スケジュールや方法を見直した。

2点目は、昨年度まで実施していた、基本計画推進プラン及び行財政改革推進計画の進捗管理を、本報告書でまとめて行うこととし、合わせて標題を「内部評価」から「行政評価」へ改めた点である。報告書の事業欄において、推進プラン及び行革計画の事業に該当する場合は事業番号を記載し、巻末には指標の推移を掲載している。

これらにより、決算資料とそれぞれの報告書における整合性を取ることで、決算から事業評価、次年度予算編成への流れを整理し、合わせて各課の事務負担の軽減を図った。

評価対象については、330 事業とし、それぞれを狛江市後期基本計画の体系図の内容や方向性と照らし合わせ、AからDまでの4段階で評価を行った。評価基準は、「A:進捗している」「B:現状維持」「C:あまり進捗していない」「D:進捗していない」としている。本報告書では、体系図の施策によって、各事業を割り振っているが、複数の施策にまたがる事業については、施策ごとに評価を行っているため、同一事業でもそれぞれの施策に対する進捗状況によって評価をしている。評価結果は、全 330 事業中、A評価が 86 件、B評価が 240 件、C評価が4件、D評価が0件となった。

9月1日午後5時までに各部確認いただき、その後、内容を修正の上、改めて9月8日
予定の行財政改革推進本部会議において、審議いただきたい。

本 部 長 特に質問・意見等なければ、内容について各部署で確認することとし、第438回
江市行財政改革推進本部会議を終了する。